



平成20年5月23日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 富田芳男
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部専任課長 徳升聡司
(TEL. 03 - 3216 - 4561)

平成20年3月期決算説明会資料

当社では、本日5月23日、アナリスト向けに平成20年3月期決算説明会を開催いたします。

平成20年3月期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成20年3月期 決算説明会



関東電化工業株式会社
平成20年5月23日

1

説明内容

1. 20/3決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資比率 %	H20/3 個別売上高	対前年同期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	5,613	241	化学工業製品の販売、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	5,443	992	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	955	△24	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA(株)	2 億ウォン	90.0	8,392	2,148	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7 百万NTドル	100.0	1,837	465	フッ素系製品の販売

合計	22,243	3,822
----	--------	-------

関東電化工業株式会社

3

事業の種類別セグメント

名称		内容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ピリデン、シクロヘキサノン、シクロヘキサン等
精密化学 品事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲストン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、フルオロエチレンカーボネート、液晶材料、排ガス処理装置(エフトール)等
その他事業		工場プラント建設、工場設備保全工事、保険代理店業務等

関東電化工業株式会社

4

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H19/3 (倍率)	H20/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H19/3	H20/3	増減	増減率 (%)
売上高	408 (1.12)	441 (1.13)	33	8.1	365	390	25	6.9
営業利益	66 (1.07)	57 (1.18)	△8	△13.5	62	48	△13	△21.5
経常利益	65 (1.07)	53 (1.16)	△11	△18.3	61	46	△15	△24.7
当期純利益	31 (1.04)	32 (1.12)	0	3.0	30	29	△1	△4.2

関東電化工業株式会社

5

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H19/3	H20/3	差額
売上高	408	441	33
営業利益	66	57	△8
当期純利益	31	32	0

(1) 売上高増加(+33億円)

- ・基礎化学品事業部門は、価格修正効果と拡販により増収(+2億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売数量が価格低下を上回って増収(+30億円)

(2) 営業利益減少(△8億円)

- ・基礎化学品事業部門は、若干改善し増益(+0.7億円)
- ・精密化学品事業部門は、減価償却費等が増加し減益(△8億円)

(3) 当期純利益増加(+0.9億円)

- ・税引前利益は減少したものの、税金費用が減少したため増益

関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H19/3	H20/3	差額
売上高	110	112	2
営業利益	△1.8	△1.0	0.7

- ・売上高は、水島工場でのフレークか性ソーダの増産と原燃料価格高騰分の価格転嫁等により、前年同期に比べ増収となる。
- ・H20/3の営業利益は、原材料費の高騰により、前年同期に比べ微増に留まった。
- ・H19年度上半期は、原材料の高騰もあり赤字となったが、H19年度下半期の営業利益は黒字であった。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

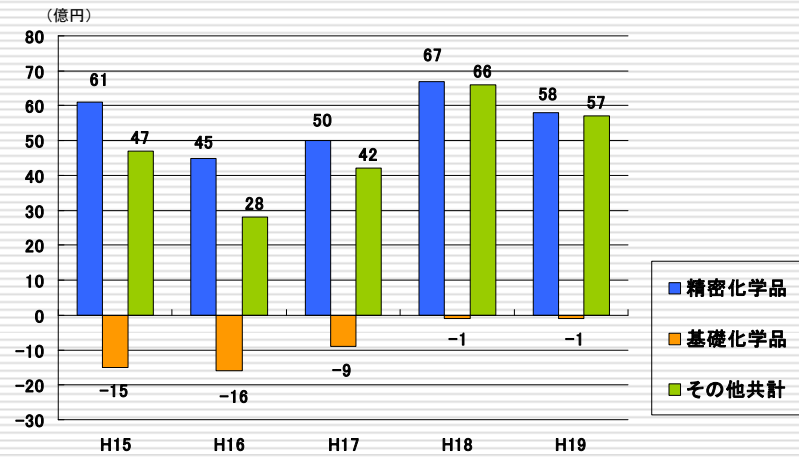
	H19/3	H20/3	差額
売上高	274	305	30
営業利益	67	58	△8

- ・三フッ化窒素は、販売価格の低下はあったものの、半導体・液晶生産の好調を受け販売数量が大幅に増加し、前年同期に比べ増収。
- ・六フッ化タングステンは、堅調な需要を受け、前年同期に比べ増収。
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、半導体の微細化を受け需要が増大し、前年同期に比べ増収。
- ・電池材料の六フッ化リン酸リチウムおよび電池の添加剤フルオロエチレンカーボネートは、需要の拡大により、前年同期に比べ大幅な増収。

関東電化工業株式会社

8

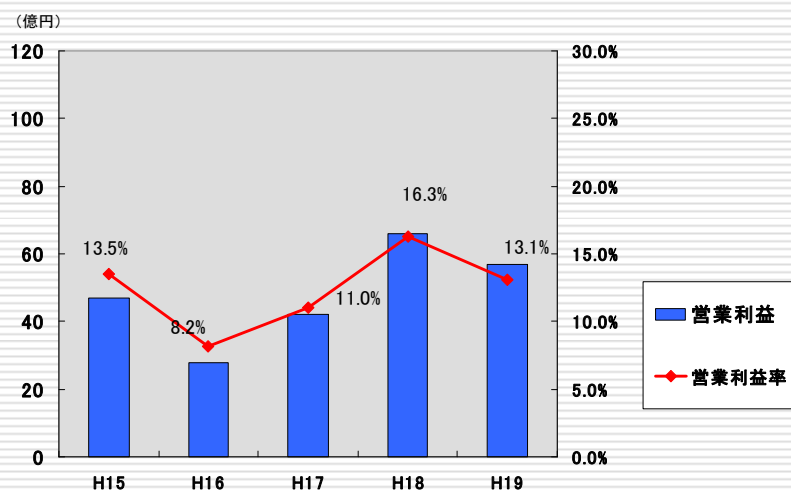
セグメント別営業利益の推移(連結)



関東電化工業株式会社

9

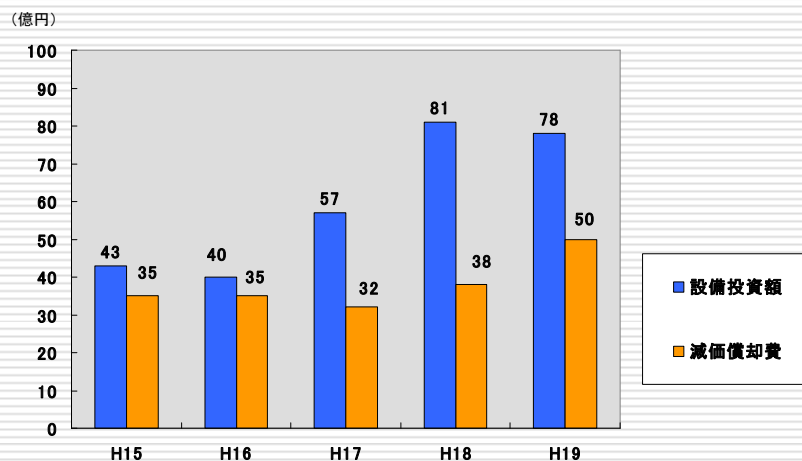
営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

10

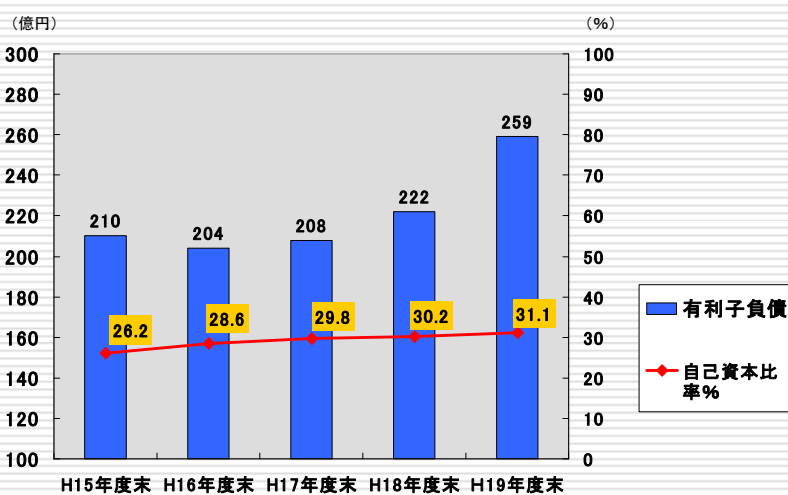
設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

12

説明内容

1. 20/3決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H19	H20	差額	H19	H20	差額
基礎	112	110	△2	△1	1	2
精密	305	345	40	58	59	0
その他	23	30	6	※0	※0	0
合計	441	485	43	57	60	2

設備投資	78	90	11	※その他には、連結調整を含みます。 ※為替レート見込:105円/\$
減価償却	50	67	16	
研究開発費	10	11	0.4	

中期経営計画数値目標(連結)との対比

(単位:億円)

	H19実績	H20見込	(H20中計)	H21中計
売上高	441	485	(500)	550
うち精密化学品	305	345	(362)	412
営業利益	57	60	(65)	80
経常利益	53	55	(62)	77
減価償却費	50	67	(70)	69
設備投資額	78	90	(100)	60

関東電化工業株式会社

15

設備投資の状況・今後の計画

□ 半導体・液晶用特殊ガスの設備増強・拡販

- ① フッ酸電解能力増強(H21.1)
- ② 三フッ化窒素設備増強 (H20.2 →2,150t、H21.1 →2,700t)
- ③ 六フッ化タンゲステン設備増強(H20.3 200t→300t)
- ④ C4F6設備増強(H19.11 30t→50t)
- ⑤ CIF3設備増強(H20.8 30t→40t)
- ⑥ COF2拡大設備設置(H20.3 →100t)

□ 電池材料の設備増強・拡販

- ① 六フッ化リン酸リチウム設備増強(H20.10 620t→950t)
- ② FEC設備増強 (H20.7 60t→100t)

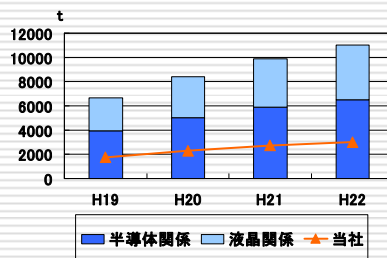
関東電化工業株式会社

16

—主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

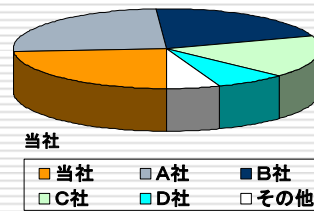
- 半導体・液晶製造装置のクリーニングガス。
- 今後、半導体・液晶の生産量増加に伴い、三フッ化窒素の需要は確実に増加する。また、太陽電池向けの需要も見込まれる。
- 需要増に対応するため、製造能力を、H20年2月に2,150tに拡大した。さらに、H21年1月に2,700tに拡大する予定。

【販売数量(H20以降は予想)】



【現在のシェア予想】

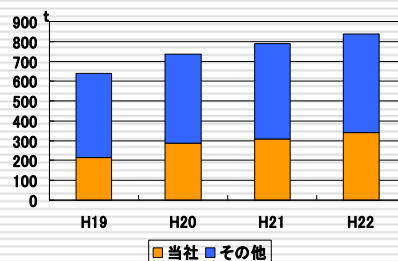
当社シェアは約25%



—主な製品の見通し— 六フッ化タングステン(WF6)

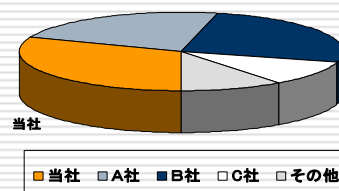
- 半導体用配線材料。
- 今後、半導体の生産量増加に伴い、需要は確実に増加する。
- 需要増に対応するため、H20年3月に製造能力を300tに拡大した。

【販売数量(H20以降は予想)】



【現在のシェア予想】

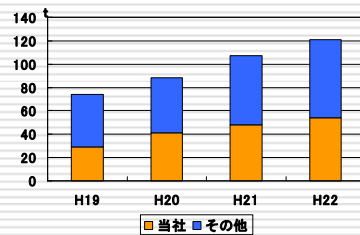
当社シェアは約3分の1



—主な製品の見通し—ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C4F6)

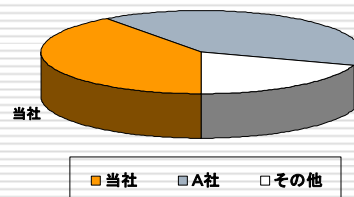
- 半導体酸化膜微細エッチング用ガス。H17年10月に上市。
- 特徴：高アスペクト比エッチングが可能。短い大気寿命。
- 微細加工の伸展に伴い、需要が拡大している。
- 今後の需要に対応するため、H19年11月に製造能力を50tに拡大した。

【販売数量(H20以降は予想)】



【現在のシェア予想】

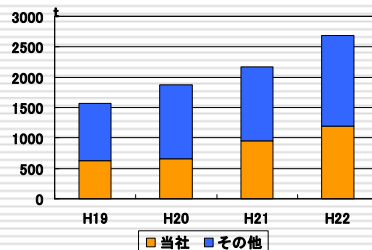
当社シェアは約40%



—主な製品の見通し—六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

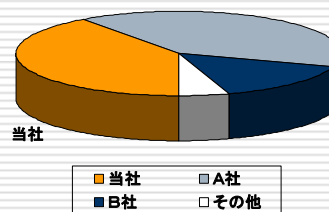
- リチウムイオン二次電池の電解液の材料。
- 携帯電話・電動工具向け等の増加に伴い、需要は拡大する。
- 今後、HEV車載用LiBの需要にも対応を進める。
- 需要に対応するため、H20年10月に製造能力を950tに拡大する予定。

【販売数量(H20以降は予想)】



【現在のシェア予想】

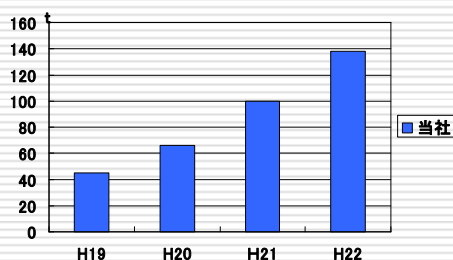
当社シェアは約40%



—主な製品の見通し— FEC(フルオロエチレンカーボネート)

- リチウムイオン二次電池の電解液の添加剤として、H17年10月に上市。
- 性能:リチウムイオン二次電池の長寿命化・低温特性の向上。
- 需要に対応するため、H20年7月に製造能力を100tに拡大する予定。

【販売数量(H20以降は予想)】



注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。